

比布町地域おこし 協力隊通信

比布町で活動する地域おこし協力隊の皆さんを紹介します。

山と手仕事にひかれて

協力隊特集 VOL.2

山にひかれ、竹と向き合う。

前田 泰輔さん

竹細工の技術継承のため、日々制作や技術習得に取り組んでいます。



子どものころから手仕事や工芸品に興味があり、旅行先でもその土地で作られる工芸品などを見るのが好きだったそうです。働きながら地域おこし協力隊の募集情報を調べ

竹細工との出会い

笑顔で振り返ります。「竹細工との出会い」

る中で、比布町の竹細工後継者募集を知りました。「こういう仕事があった」と、自分の関心と募集内容が重なったことが応募のきっかけでした。仕事の合間を縫って着任の約1年前から工房に通い、少しずつ竹細工に触れてきました。

思い通りにならない竹と向き合う

現在、前田さんが学んでいるのは、近藤幸男さんが長年磨いてきた竹細工の技術です。材料となる千島笹は、まっすぐ割れるように見えて、実際には思わぬ方向に割れてしまうことも多く、「制御するのが難しい」と話します。特に大切なのが、編む前の材料となる「竹ひごづくり。細く、均一できれいな竹ひごを作ることが、作品の仕上がりを大きく左右します。「ひごがきれいに作れたら、きれいに編める。最初から最後まで神経を研ぎ澄ませ、その積み重ねでようやく作品ができる。」と、竹細工の奥深さを感じています。

比布町での新しい暮らし

比布町での暮らしについて、まず挙げたのは大雪山の美しさです。「普段の暮らしの中で、でっかい山を眺められることに憧れていました」と話し、着任当初は毎日のように大雪P・Aから大雪山を眺め、写真を撮っていたそうです。また、道東を巡ることが多かった前田さんにとって、水田のある風景も印象的でした。「生まれ育った稲作地帯の匂いがして、少し懐かしさもありました」と、町の風景に親しみを感じています。地域のひととの交流も少しずつ増えており、近所の人と畑の水やりの際に言葉を交わすこともあります。「外から来た自分を快く受け入れてもらっている」と感じているそうです。

町の皆さんへメッセージ

「黙々と作業していることが多く、皆さんの目に触れる機会は少ないかもしれませんが、『来てよかった』と思ってもらえるよう精進します。温かく見守っていただけるとうれしいです」とメッセージを寄せてくれました。

